

## 第6章 環境配慮に向けた制度とネットワークの展開

### 【施策の方向】

- 行政が実施する道路、ダム、河川、海岸等における公共事業はもとより、民間の開発事業においても環境への配慮を推進します。
- 県民の不安を解消し、県民、事業者及び行政が一体となって行動できるようにするため、様々な環境情報の収集・分析・公開を推進します。
- 企業、団体、学校、市町村等と積極的に連携して、環境関連の様々な研究を行い、新たな技術開発を推進し、環境産業の育成につなげます。
- 九州各県、国等との連携を強化し、県境を越えた環境問題の解決に向けた取組を推進します。

### 第1節 開発における環境配慮の推進

#### 現 状

- 熊本県では平成13年度に熊本県環境影響評価条例を施行し、法よりも対象事業を拡大するとともに、地下水及び干潟・藻場などの保全の観点から規模要件の引き下げも行っています。平成19～21年度の3年間の環境影響評価審査件数は5件です。
- 法や条例の対象とならない小規模な県の公共事業については、県の率直的な取組として、平成10年度から公共事業等環境配慮システムを、平成15年度から公共事業等環境配慮チェックリストを運用し、環境配慮を図っています。

#### 課 題

- 事業実施段階では既に事業の基本的な枠組みが決まっており、環境配慮措置についての検討の幅が限られてしまうことから、事業の柔軟な計画変更が可能である早期の段階において、評価、審査することが必要となっています。
- 市町村実施の公共事業などについても、環境配慮を進める仕組が導入されるよう、引き続き、支援・要請していく必要があります。

#### 施策の方向性

〔環境影響評価（環境アセスメント）制度の適切な運用〕

- 法律、条例の適切な運用を推進します。
- 事業のより早期の段階である計画的段階等から環境配慮を行うため、戦略的環境アセスメントの制度化を推進します。

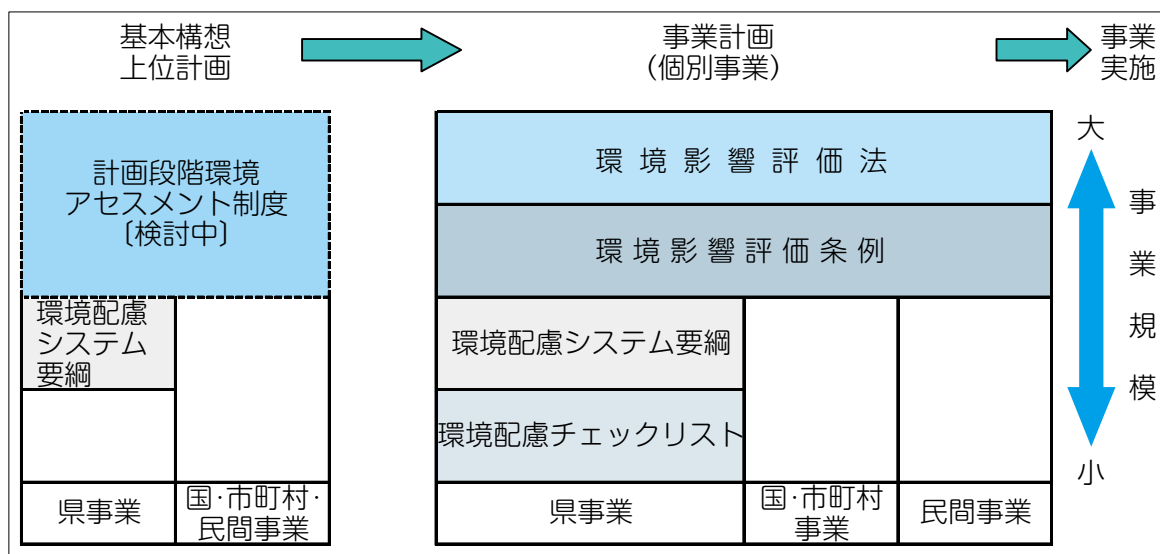
〔県・市町村の公共工事等における環境配慮の取組の推進〕

- 環境配慮チェックリストの活用を徹底するための研修会等を実施します。
- 必要に応じて、環境配慮システム、チェックリストを改定します。
- 環境配慮の仕組みの導入がなされるよう、市町村に対する全体研修会の開催や個別支援に取り組みます。

〔民間の開発事業における環境配慮の取組の促進〕

- 民間の各種事業に対応できる汎用性のある環境配慮のための指針策定の検討を行います。

図6-1 熊本県の環境アセスメント制度について



出典：環境保全課作成

【開発における環境配慮の推進に係る基本目標】

- ◎あらゆる開発事業における環境配慮を進めます
- ◎戦略的環境アセスメント制度を導入します

【数値目標】

指標	現状	目標値(H27)	目標設定の考え方
戦略的環境アセスメント（計画の策定段階等早期の段階から環境への配慮が図られるような制度）の導入	現在、法改正案が国会に提出中であり、その改正案との整合性を図るため、情報収集中	法改正を踏まえた戦略的環境アセスメントの導入	法改正のうえ法に基づく制度が導入される見込みであり、同制度との整合性を図ったうえで、条例の改正を行う

## 第2節 環境情報・研究のネットワーク化

### 現 状

#### 〔県の試験研究機関における環境分野の取組〕

- 熊本県保健環境科学研究所では、保健科学分野と大気及び水環境問題などの環境科学分野の研究活動を行っています。
  - ・大気環境関係では、有害大気汚染物質、酸性雨が環境に及ぼす影響などに関する調査研究を実施しています。
  - ・水環境関係では、河川、海域などの公共用水域の水質及び底質の調査やゴルフ場の農薬、地下水中の有害化学物質などに関する調査研究を行っています。
- 熊本県農業研究センターでは、環境と調和した農業生産を実現するために、環境に配慮した防除技術を組み込んだ総合防除体系の開発に取り組んでいます。  
また、環境にやさしい施肥方法の開発と家畜排せつ物などの未利用バイオマスの有効活用技術の開発を行っています。
- 熊本県水産研究センターでは、水産資源の回復と持続的利用を目的として、国や有明海及び八代海沿岸の各県の研究機関などと連携して、漁場環境調査、藻場・干潟の機能回復のための調査研究及び海域環境への負荷の少ない養殖技術開発などに取り組んでいます。
- 熊本県林業研究指導所では、地球温暖化対策に向け、日本の森林の二酸化炭素吸収量の算定について国際的な承認を得る必要があるため、吸収量や貯留量などを科学的に明らかにするための調査研究を国などと連携して取り組んでいます。
- 熊本県産業技術センターでは、県内製造業の支援機関として、地域企業のニーズに対応し、省エネや環境保全関連の商品開発、また製造工程から排出される廃棄物、排水、バイオマスなどの再利用やリサイクルといった有効利用について地域企業と共同で研究開発を行っています。

#### 〔環境情報のネットワーク化〕

- 県の広報、出前講座などの普及啓発活動とともに、マスコミをはじめ様々な機関、団体による環境情報の提供が行われています。
- 県が調査測定した環境データを、熊本県環境白書をはじめ各種印刷物や熊本県ホームページで公表しています。また、ホームページの中では、環境に関する情報を総合的に提供する環境ポータルサイト(※)を開設しています。

(※) 熊本県環境ポータルサイト(URL) <http://www.kumamoto-eco.jp/>

#### 〔環境研究のネットワーク化〕

- 県の各試験研究機関において、各々の研究分野に対応した環境関連の研究及び技術開発などを行っており、他県と連携した取組も進められています。

## 課 題

### 〔県の試験研究機関における環境分野の取組〕

- 熊本県保健環境科学研究所では、九州各県の各試験研究機関とのネットワーク化による技術交流、共同調査を実施していますが、今後、国等の他の研究機関との連携を図るとともに、引き続き、ネットワーク化に取り組み、研究調査結果を行政へフィードバックするなど、情報共有化を推進する必要があります。
- 農業は、自然と調和した産業である反面、環境に負荷を与える面も持っています。このため、今後とも農業研究においては、農業生産活動が環境に与える負荷を軽減するとともに、農業の自然循環機能の維持増進を図る技術の開発が求められています。
- 漁場環境の変化が漁業生産に影響を及ぼしているため、その的確な把握と原因究明が必要となっています。
- また、魚類養殖に被害を及ぼす有害赤潮の発生動向の解明と被害の軽減対策が急務となっています。
- 水産資源増産や海域環境浄化効果を持つ藻場・干潟の機能回復も必要となっています。
- 魚類養殖用飼料による海域へのリンの負荷が過剰であるため、改善が必要となっています。
- 地球温暖化防止に向けて、我が国が京都議定書の国内温室効果ガス削減目標のうち、約3分の2相当量（1,300万炭素トン）を森林による二酸化炭素吸収量で達成する計画としており、日本の森林の二酸化炭素吸収量の算定について、科学的な調査データを提示して国際的な承認を得る必要があるため、森林の炭素動態に関する調査を着実に遂行していく必要があります。
- 産業分野においては、一部の地域企業を除けば新たに環境分野へ参入することとなり一定の事業リスクが予想されるため、産業支援機関はもとより大学や金融機関も一体となった、商品企画から開発、製品化、販路開拓に至る幅広い支援が必要です。

### 〔環境情報のネットワーク化〕

- より多くの県民、団体、事業者などに、的確に環境の現状や対策情報を伝え、取組の必要性や行動意識を醸成する必要があります。
- 熊本県環境白書や熊本県環境ポータルサイトの内容を充実させるとともに、更に分かりやすく、見やすいものにするよう工夫していく必要があります。

### 〔環境研究のネットワーク化〕

- 環境に関する研究及び技術開発に係る情報交換、共同研究の可能性などについて、国、他県及び民間の研究機関等との一層の連携を推進する必要があります。
- 産・学・行政のより一層の連携強化による研究成果の特許化、事業化などの更なる促進を図っていく必要があります。
- 地球温暖化対策や大気汚染など、県域を越えた環境保全に取り組む必要があります。

## 施策の方向性

### 〔県の試験研究機関における環境分野の取組〕

○熊本県保健環境科学研究所では、以下の調査等に取り組みます。

- ・ 大気環境調査
- ・ 大気汚染物質排出源調査
- ・ 酸性雨調査
- ・ 有害大気汚染物質調査
- ・ 環境放射能水準調査
- ・ 有害大気汚染物質濃度の推移に係る研究
- ・ 有害大気汚染物質や酸性雨に関し、測定、データの解析、行政施策への提言
- ・ 公共用水域及び工場/事業場排水の水質調査
- ・ 地下水質調査
- ・ ゴルフ場や産業廃棄物などに係る調査
- ・ 水生生物を指標とした川の水環境の評価
- ・ 地下水中金属濃度の概況把握
- ・ 残留性有機汚染物質のデータベース化

○熊本県農業研究センターでは、環境にやさしい農業（くまもとグリーン農業）の推進を加速する技術の開発に取り組みます。

- ・ 環境負荷軽減を図りつつ高い生産性を持続できる土壌管理法やバイオマス資源の利用を促進する技術開発を進めます。
- ・ 天敵や物理的防除・耕種的防除手法を活用した総合作物管理技術（ICM）の開発を進めます。

○熊本県水産研究センターでは、以下の調査等に取り組みます。

- ・ 漁場環境調査（環境の長期変動に関する調査、赤潮の発生予測・動向調査、赤潮被害軽減のための技術開発）
- ・ 藻場・干潟の機能回復（アマモ場等の機能回復に関する研究、アサリ漁場の餌料環境の研究）
- ・ 環境負荷の少ない養殖技術の開発（海藻・貝類による環境負荷の低減技術の開発）

○熊本県林業研究指導所では、森林吸収源インベントリ情報整備事業の取組として、森林の落葉落枝や土壌に含まれる炭素の動態について、林野庁や独立行政法人森林総合研究所と連携を図りながら調査を実施していきます。

○産業分野においては、リーディング育成支援事業や、財団法人くまもとテクノ産業財団を中心とした地域プラットフォームの構築、熊本県産業技術センターに整備する試作・新商品開発技術拠点機能による支援等を行います。

また、熊本県産業技術センターでは、以下の研究、開発等に取り組みます。

- ・ バイオマテリアルの開発と応用技術に関する研究
- ・ 地域資源を活用した食品等の開発に関する研究
- ・ 次世代耐熱性マグネシウム合金の基盤技術開発



- ・有機太陽電池や有機ELなど次世代エレクトロニクスの関連技術基盤である有機薄膜研究
- ・分離膜の細孔計測技術の開発等水処理技術の研究
- ・予測制御と空調システムを用いた農業用環境制御システムの開発
- ・木質系複合藻礁の研究開発

#### 〔環境情報のネットワーク化〕

○環境情報の積極的な提供を推進します。

- ・県が調査測定した環境データや県、市町村、企業、環境保全活動団体等が行う普及啓発の取組（環境保全に関するイベントや学習会等）などに関する情報などを総合的かつリアルタイムに提供するための熊本県環境ポータルサイトの掲載内容の充実を推進します。
- ・熊本県環境ポータルサイトを活用した各主体の連携・協働による自発的な環境保全活動を促進します。

#### 〔環境研究のネットワーク化〕

- 環境に関する研究及び技術開発に係る情報交換、共同研究を推進するため、国、他県及び民間の研究機関等との一層の連携を推進します。
- 熊本県産業技術センターを中心とした産学行政連携による共同研究・技術開発を推進します。
- 九州地方知事会等のネットワークを活用し、地球温暖化対策や大気汚染、有明海・八代海の再生など県域を越えた環境保全の取組を推進します。

#### 【環境情報・研究のネットワーク化に係る基本目標】

- ◎環境研究のネットワーク化を進めます
- ◎産・学・行政連携による研究開発や環境産業の振興に取り組みます

## 第3節 国際協力の推進

### 現 状

- 熊本県環境センターにおいて、隣接する国立水俣病総合研究センター及び水俣市立水俣病資料館との連携により、海外からの施設研修の受入れ等を行っています。

### 課 題

- 本県との姉妹友好提携先をはじめとして、引き続き環境分野における国際交流を進めていく必要があります。
- 熊本独自の国際貢献に寄与するため、外国からの人材受入れや人材育成を一層推進する必要があります。

### 施策の方向性

- 「くまもと国際化総合指針」に基づき、相手国のニーズに即し、環境等特定課題解決のための人材育成など、関係機関やNGOと連携した国際協力を推進します。
- 国境を越えた環境問題の解決に向け、以下について取り組みます。
  - ・「東アジア酸性雨モニタリングネットワーク」が実施する調査に協力します。
  - ・黄砂や光化学オキシダント、漂流・漂着ごみ等の越境汚染対策について国と連携して取り組みます。
  - ・水銀に関する条約(※)の締結に向けた国際会議の本県への招致を目指します。また、水銀使用抑制にも率先して取り組みます。
  - ・熊本大学の地下水環境リーダー育成プログラムなどと連携し、国際的な地下水教育や地下水研究の拠点化に取り組みます。

#### (※) 水銀に関する条約

平成21年2月に開催された国連環境計画（UNEP）第25回管理理事会において、平成25年までに国際的な水銀規制に関する条約の制定を目指すことで合意。これを受けて、我が国では、この条約の採択と署名を行うために平成25年（2013年）に開催予定の外交会議（水銀国際会議）を招致して、同条約を「水俣条約」と命名したいとの意向を表明しました。

本県においては、この会議を招致し、水俣病の歴史と教訓、水俣・芦北地域の美しい自然や環境の保全に向けた先進的取組を世界に発信することを目指します。

#### (友好自治体との交流)

- 本県と姉妹・友好関係にある中国・広西壮族自治区、アメリカ・モンタナ州、韓国・忠清南道の各自治体との環境分野での交流を促進します。

#### 【国際協力の推進に係る基本目標】

◎国や民間団体などとの連携により環境分野における国際交流を推進します